

令和 7 年度第 1 回 柏市社会教育委員会 議会 議 録

1 開催日時

令和 7 年 1 0 月 2 7 日（月）午後 2 時から午後 4 時 3 0 分

2 開催場所

ラコルタ 柏 4 階 集会室 1 ・ 2 ・ 3

柏市 柏 5 - 8 - 1 2

3 出席者

（委員）

荒井議長，土屋副議長，増田委員，鈴木委員，大石委員，澤田委員，高橋委員，五味田委員，佐藤委員

（事務局）

宮本生涯学習部長，村山中央公民館長，森川図書館長，アフタースクール課鈴木主幹，田中生涯学習課長，生涯学習課竹内主幹，同廣瀬主査，同岡田主事，同萌抜生涯学習専門アドバイザー，同岩渕生涯学習専門アドバイザー，同岡野生涯学習専門アドバイザー，影山コーディネーター

4 内容

（1）開会

（2）委嘱状交付

（3）生涯学習部長あいさつ

（4）委員自己紹介

（5）事務局紹介

（6）議長，副議長の選出

（7）令和 7 年度生涯学習部各課・館主要事務事業概要について

（8）テーマ説明について

（9）協議事項（グループワーク）

ア 「自分らしく生きる」とはどのような状態か

イ 子どもたちが自分らしく生きるためにどのような力が求められるか

ウ 子どもたちが自分らしく生きるための力を身に付けるために、家庭ではどのようなアプローチができるか

(10) 事務連絡

(11) グラフィックレコーディングの共有・まとめ

(12) 閉会

5 会議概要

(1) 柏市社会教育委員会会議の概要について

事務局から、柏市社会教育委員の概要説明を行った。

(2) テーマ説明について

事務局から、テーマ説明を行った。

(3) 協議事項（グループワーク）

ア 「自分らしく生きる」とはどのような状態か

【A班発表・澤田委員】

「自分の好きを知っている」「自分の価値観を自分できちんと認識している」「自分に正直でいられる」といった点が挙げられ、これらは「自分らしくある」ということにつながるのではないかという意見が出た。

さらに、「自分らしく生きる」ためには他者とのかかわりが欠かせず、どのような境遇にあっても肯定的に受けとめられ、失敗しても認められ、自分が必要とされていると感じられることが大切だという意見があった。

そのような中で、自分の「好き」や「得意なこと」「知識」「経験」を存分に発揮できる状態こそが、「自分らしく生きる」ということではないかという意見が出た。

【B班発表・土屋委員】

「自分らしく生きるとは、自分の人生の主導権を取り戻すことではないか」と問いかけを行い、そこから議論が始まった。

そこから、「自分の気持ちに素直になれる」「自分の個性や特性を生かす」「自分を好きでいられる」といった意見が出され、「主導権を取り戻す」とは具体的にどのような状態を指すのかについて話し合われた。議論が進む中で、「自分らしさには正解がない」「自分らしさは一つではない」「安心できる場がある」

「夢や希望を持てる」といった、心の拠り所やメンタル面での居場所の存在も自分らしさに関係しているのではないかという意見が挙げられた。

また、「周りの人に気を遣う」「他者を大切にする」「友人や家族を大切にする」といった人との関わり方についての意見も出た。

個人的には、「やりたいこと」「やれること」「やるべきこと」のバランスの中で、自分らしさがどう表れるかを考えることが大切ではないかと考えている。特に、「やりたいこと」は自分の内面から湧き出るものであり、「やるべきこと」は外から与えられるものであり、その中で「やれること」をどう確認していくかが、自分らしさを見つめ直すヒントになるかもしれないと考えている。

イ 子どもたちが自分らしく生きるためにどのような力が求められるか

【A班発表・佐藤委員】

「自己表出力」、つまり自分の気持ちをしっかりと伝える力を高めることが大切だという意見が出た。自分の思いを表現できるようになることで、相手を受け入れる力や、協調・協同する力にもつながっていくと考えた。

そのためには、「ワクワクする力」を持ち、物事を楽しむことが出発点になると考えた。発想力や創造力を発揮し、継続的に取り組む姿勢を持つことが重要で、その中で、情報活用力を生かしたり、自分を正しく理解する「自己認知力」や、自分を肯定する「自己肯定感」を高めていくことが大切だという意見が出た。

最終的には、こうした一つ一つの力が「生きる力（確かな学力・豊かな心・健康な心身）」へとつながっていくのではないかという意見が出た。子どもたちには、さまざまな力を結びつけ、互いに支え合いながら「つながる力」を育ててほしいという意見でまとまった。

【B 班発表・五味田委員】

「今の子どもたちはどんな姿なのだろう」という逆の視点から考えた。「人に関心をもてない」「物事に興味をもてない」「正解をすぐに求めようとする」「自分の気持ちを素直に表現できない」といった課題が挙げられた。

そこから、「そうした状況をどう変えていくか」を考える中で、やはり「体験」が大切だという意見が出ました。とはいえ、実際に一步を踏み出すことには勇気が必要であり、「失敗しても大丈夫」という気持ちをどう育むかも大切なポイントだと話し合った。

また、子どもたちは人とのかかわりの中で生きており、他者を受け入れる力や、いろいろな人がいることを理解する力を育てることが重要であり、これはつまり、人に関心や興味をもつことにつながる。さまざまな体験や人とのかかわりを通して、自分の「引き出し」を増やしていくことで、表現の幅が広がり、世界が広がり、選択肢も増えていく。

最後に、「勇気をもって一步を踏み出すこと」が何より大切だという意見でまとまった。

ウ 子どもたちが自分らしく生きるための力を身に付けるために、家庭ではどのようなアプローチができるか

【A 班発表・増田委員】

会話を増やすこと、特に肯定的な会話を心がけ、子どもの話をしっかり聞くことが大切。家庭が子どもにとって安心できる居場所となり、親が味方になって笑顔になれる空気を作ることが重要であるという意見がでた。

また、多様な体験活動を通して子ども自身が自分の興味・関心を把握できるようにし、それを親子で話し合うことも大切。家庭で子どもの好きなことを応援するアプローチができるのではないかという考えも出た。

さらに、価値観や視点を変えることも大切で、当たり前に行っていることでも「いいことだよ」と褒めたり、「ありがとう」と伝えたりすることで、子どもを認めることにつながる。また、

「親が先生にならない」という表現もでた。親が子どもを評価しないで、親として子どもを認め、常に肯定的な態度で接することが大切だという意見が出た。

【B 班発表・鈴木委員】

「親子のコミュニケーション」に関する意見が多かった。その中で、親の感動が見られる場や、親子で一緒に失敗できる場、親が社会とつながる機会があることも重要ではないかという意見が出た。

背景として、共働き家庭が増え、親が子どもに関わる時間が十分にとれないのであれば、逆に子どもが親の姿を見ることができ場が必要なのではないか、という意見が出た。

また、親の時間が確保しにくい状況を踏まえると、地域の大人やお店などが関わる機会があるとよいのではないか、という意見が出た。

(4) グラフィックレコーディングの共有・まとめ

影山コーディネーターから、グラフィックレコーディングの共有と意見のまとめを行った。

グラフィックレコーディング画像は別添のとおり。

6 傍聴者

0 人

以上